



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jimu@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「不離一体・中小企業経営に役立つ同友会活動の実践」 ～同友会活動が企業を支え、地域を育てる～

第31回 中同協役員研修会 開催さる!!

(兼 第12回 九州・沖縄ブロック支部長・支部役員研修交流会)

日時：5月24・25日(木・金) 会場：ザ・ニューホテル熊本

第1講 同友会の歴史と理念から何を学び、
経営と運動に生かすか

中同協相談役幹事 (株)エステム 名誉会長 鋤柄 修 氏

第2講 「労使見解」に基づく企業づくりに取り組み、
「人を生かす経営」の輪を地域に広げよう

中同協幹事長
(株)ヒューマンライフ 代表取締役 中山 英敬 氏

第3講 同友会役員の役割は、学び実践する姿を示すこと

中同協会長 (株)ヒロハマ 会長 広浜 泰久 氏

代表理事 金井 政春

第31回中同協役員研修会が熊本にて開催されました。合わせて第12回九州・沖縄ブロック支部長・支部役員研修交流会も開催されました。長崎同友会の参加目標は40名でしたが残念ながら22名の参加となり達成率55%で最下位でした。九州・沖縄に8同友会があり4同友会が目標達成でした。来年2月の中小企業問題全国研究集会in長崎に向けて機運を高めると共に、これからの長崎同友会の更なる発展の為に役員研修は必要不可欠だと思います。次回の役員研修会には多くの方が参加されるよう参加促進に努めます。

その様ななか、開催日1週間前に第1講の座長に任



命され、報告では戦後2年目1947年同友会の前身となる全日本中小企業協議会(全中協)が「中小企業こそ日本経済の主人公」の自覚と使命感の元、設立されました。設立10年後の1957年、日本中小企業政治連盟(中政協)が提唱した「中小企業団体法」制定運動をめぐり全中協内部で対立がありました。その時、自主性の賢持を主張する人達が日本中小企業家同友会(現東京中小企業家同友会)を設立しました。設立趣旨は「中小企業家の中小企業家によるものであること」、「天は自らを助くるものを助く」(人を頼らず自分自身で努力する者には天が助け、幸福をもたらす)の自覚で

目次

第31回 中同協役員研修会 参加報告	1	事務局企業訪問	16
各界からの提言	6	入会・交代会員紹介	17
5月例会・総会報告	7	理事会報告	18
What is 共同求人?	13	会員動向・会員数	19
佐世保支部 大連外国語大学大学生と触れ合う、大連視察ツアー 参加報告 ..	14	7月例会案内	20
SNS活用についてのアンケート 結果報告	15		

のぞむことを宣言しました。この精神は現在の同友会活動に脈々と受け継がれている事を嬉しく感じ、これからも引き継いで活動したいと強く思いました。

私は座長として3つにまとめてみました。

①同友会運動とは良い会社・良い経営者・良い経営環境の実現を掲げる「同友会運動の3つの目的」を「自主・民主・連帯の精神」で取り組み「国民や地域と共に歩む中小企業」を目指す壮大な運動です。

②同友会運動を理解し実践する事により、同友会での学びを企業で実践しその事例報告を同友会の中に落とし込み会員同士が共有し、同友会活動に生かす。この事により同友会運動と経営は不離一体の関係となる。

③同友会理念を体現する企業が増えることは「あの企業で働きたい、あの企業がある事が地域の誇り」と



の評判が広がることとなり、地域を変えていく確かな力になっていきます。

これからもこの様な多くの学びを多くの会員さんと共有、実践できる同友会でありたいものです。

長崎出島支部 菅原千代枝

中同協役員研修会には初めての参加でした。

第1講、鋤柄相談役の講義では、まずは同友会の歴史の学びでした。1969年の協議会からはじまり、三つの目的、労使見解、経営指針を確立する運動など同友会の基礎である様々な事が約50年前から始っていったことに驚きました。同時に同友会運動と企業経営は不離一体ということを鋤柄相談役の実体験の中から受け取る事ができました。

グループディスカッションでは、思いの強い方ばかりで、やはり同友会の歴史をしっかりと学び、受け継ぐ事が大切とのことでまとまりました。

第2講、中山幹事長の講義はとても熱いもので、社員の顔が思い浮かぶような社員への思いが伝わり、とても感銘を受け、自分自身に何が足りないのか問われたような気がしました。

その中でやはり重要なことは労使見解。人を生かす経営の基礎の部分です。グループディスカッションで

は、出来ていない部分が浮き彫りになったとの意見も。社員との信頼関係づくりなど、たくさんの学びの中で何から始めたらいいか…悩んでいたところ、今、自社で必要なことから学んでいけばいいのではないかの意見があり、はっと気づきがありました。具体的には企業変革支援プログラムSTEP2の活用です。現在必要なことに絞り込み、進めていく方針にしました。

中山幹事長の言葉で一番印象に残ったことは、「ゴルフで100をきらない人達4人と回っても、いつまでたっても100はきれない。」との言葉です。確かにそうだなと感じました。100をきるには100きっている人と回らないと意味がない。目標としている事を達成するには自分の身を高い位置の環境にもっていかねばいけないと学びました。

今回の役員会では他県の会員との交流もでき、同友会活動、経営者としての覚悟、自覚の大切さを学び、私の今からやるべきことに背中を押されたような役員会になりました。同友会活動と企業経営は不離一体。この言葉を忘れずに学びを深めていきたいです。

長崎出島支部 萩田 実

昨年長崎で開催された役員研修会が今年は熊本で開催され、私自身初めて参加させていただいた。熊本同友会 早咲京子代表理事の開会挨拶の後、第一講では、同友会の歴史と理念から何を学び、どう生かしていくかという講義があった。講義の中で署名10万人達成のためのエピソードが印象に残った。少し無理な目標でも他の人に負けたくないという人が絶対いるもの。その火種に息を吹きかけ大きな炎として、他に影響を与え目標を達成していく。大きい組織の中で事を成す

とするならば是非参考にしたいと感じた。

グループディスカッションでは私のグループ8名。副代表理事や支部長、副支部長、支部役員というメンバーに相応しいハイレベルなディスカッションが行われた。それぞれ自社の問題もさることながら所属の同友会支部活動についての問題点等も含めて、深く話し合われた。

引き続き第2講として労使見解に基づく企業づくりの講義があった。この中で『人を生かす経営』という冊子の話があった。私自身、恥ずかしながら初めて拝読する冊子であった。その中には、労使見解について

細かく適切に表現されており正に経営者としてのバイブルであると感じた。経営の全機能を十分に発揮させるキーポイントは、正しい労使関係を樹立する事であるといっても過言ではない！と、この冊子では言っている。どの経営者も少し蔑ろにしている部分かもしれ

ない。この冊子の事を深く理解し経営に生かしていきたいと強く感じた。

長時間に渡る役員研修会ではあったが、他県の役員の皆様との交流もでき、とても充実した時間を過ごすことができた。

諫早支部 馬場 一信

第1講、まずは、同友会の歴史をお話しされて、次に愛知同友会と、全国の運動とのかかわりについて、経営指針、愛知流の会員増強の仕方など面白おかしくお話をされました。

又、同友会理念をいかに学び自社で実践し、「労使見解」から、経営指針書の中に、まず最初に社員の方針書を付けて、その経営指針書を、パート社員でも活用しているそうです。

同友会運動のリーダーの使命と役割についての話では、「同友会と自社の経営は不離一体」と内容を説明しながら進みました。

今後、経営者として必要なことは、「先見力」、「判断力」、「説明力」である事を考えて経営していきましょう。

第2講は自己紹介、会社案内、経営指針成文化・実践運動の現状、同友会における実践運動とはなど、現在までの流れなどを話されました。くわえて、「労使見解」の実践を検証するために、また「人を生かす経営の総合実践」として、採用と教育では、社員の自主性の発揮、手づくりの社内勉強会など事細かくお話をいただきました。

今後の同友会運動の課題として、

- ①企業づくり 経営指針の作成・実践
- ②地域づくり 中身が問われる（労使見解）

③同友会づくり 宝物の宝庫—実践

企業変革支援パート1

企業変革支援パート2

④今の目的・課題 BCP 人を動かす総合実践

などの説明があり、自社を良くする為に同友会で学ぼうと、最後を締めくくられました。

第3講はまず自己紹介があり、1990年千葉同友会に入会して、5年後には、代表理事をされ同友会で学んだことを徹底して実践された話をいただきました。それを一日一日、スケジュール表に入れていく事を学びました。

①同友会三つの目的

「よい会社を作ろう」

「よい経営者になろう」

「よい経営環境をつくろう」

②自主・民主・連帯の精神

③国民や地域と共に歩む中小企業

「自他を決して貶めない」など、会長の体験談で、詳しく説明をしていただき、「役員研修会に来られなかった人は、損をしている」と思うほど、中同協の役員の皆様の報告が素晴らしかった。

テーブルには、岡山の藤井代表理事がおられて、広浜会長とのお付き合いがあり、内容の報告をまさしく実践されているとの話もあり、感銘を受けた役員研修会でした。

島原支部 北浦 雄一

同友会に入会して初めて中同協の役員研修会に参加させていただきました。

まず第1講、鋤柄相談役から同友会の歴史とその想いを話していただき、先人たちが経営に同友会活動をどのように生かしてきたのかを教えてくださいました。労使見解から学ぶ社員への関わり方は人間尊重であり、個々の自主性を重んじ自ら手を挙げて活動する人づくりが重要なのだと再認識しました。

また、話の中で「同友会に入っているのに会社経営が低迷している？何やってるの？」という話がありましたが、同友会での学びを自社へ落とし込みができていない、いかに会社で実践するかが重要だと



考えさせられました。同友会での学びを自社の成長に生かす。また、会員各社が成長し同友会の魅力となり会員増強につながる。そして、地域に活力が生

まれていくのだと。

第2講では、中山幹事長から労使見解に基づく企業づくりについての講話でしたが、まず、労使見解を経営指針に反映させる事が重要なのだと理解し、「人を生かす経営」の冒頭も「経営者の責任」から始まるように、社長が変わる事から社員が変わる、そして会社が変わるのだと教えられ、社員に求める前に経営者自らが変わらないと会社は変わらないのだという経営の在り方が明確になりました。

同友会事務局 田口 友廣

1日目 第1講では、鋤柄相談役より歴史・理念を中心に報告いただきました。

以下、概要と気付きを報告いたします。

①同友会は経営者が学ぶ場であるので、役員は学びを実践し、新会員からどうして会社が伸びたのか尋ねられるような会社にならなくてはいけないと話されました。

②同友会理念の三つの目的のひとつである「よい経営者になろう」について、過去に赤石さんより「経営者は哲学者にならないといけない、地方に行ったら美術館に行って美術を見る目を養ったりしたほうがいい」と言われたというエピソードから、経営者として経営だけでなく総合的な能力を磨いていくことが大切だということを伝えていただきました。

③社員の立場から考えると、発展しない会社には価値がなく、経営者として社員にさみしい思いをさせていないかという投げかけがあり、同友会で学んで学習型企业にしていかなければならないという言及がありました。

④21世紀型中小企業づくりとして、その地域で企業が社会的存在価値を認められ、社員が自主性を持つ

そして、2日目の第3講は所用の為、残念ながら出席することができませんでした。

今回の役員研修会に参加して、同友会活動の体現者の方の話は今後の同友会活動の課題を考えるいい機会となりました。また、各県同友会の役員の方とのディスカッションは内容のレベルが高く、第1講のグループ長を経験し非常に刺激を受ける事が出来ました。今後、支部役員として支部への落とし込みを行って行きたいと思います。

て労使が共に育ちあうことが大切であると語られました。

⑤リーダーとして言っていることとやっていることが違うことはないかという投げかけがあり、鋤柄さんは例会報告等でいくら良いことを言っている、それは実際に企業を訪問すれば分かることで、「実際に目にしたもののしか信じない」と語られました。それは情報が多くある現代においても、実際に自分の目で見て判断をすることが大切ではないかということ学びました。

最後に座長の金井副代表からはまとめとして、「同友会での学びを理解し実践、そして会で共有するといった不離一体の活動が同友会も企業も発展させるのでは」と語られ、これは参加したグループディスカッションにおいても役員は学ぶだけでなく実践すること、そして成果を出し会員への良い手本とならなければならないということが共通の認識としてあり、その実践は労使見解に基づいていることが大切であることを改めて学ばせていただきました。

今回の役員研修会で学んだことを実践し、事務局として会活動の発展に寄与できるように取り組んで参ります。

同友会事務局 峰 圭太

第2講は中山幹事長の報告でした。経営する自社（コールセンター）での実践事例は労使見解をベースにした経営指針の実践、企業変革支援プログラム（ステップ1・2）の活用など、まさに人を生かす経営の総合実践でした。過去報告や講演などお聞きしたこともありましたが、中山幹事長の熱い想いはさらに昇華され、一つひとつの言葉に重みを感じました。最終的には①企業づくり～労使見解を反映した経営指針、②地域づくり～条例推進運動を進め、地域の課題を自社の課題と置き換える、③同友会づくり～事務局を運動のパートナーとしてとらえ信頼関係を築くこと、そし

てリーダーの責任として誇れる労働環境をつくることが重要であるとまとめられました。

グループディスカッションでは報告からの学びと今後の実践について討論しました。やはり討論の中心は経営指針。各県からご参加の役員の方々の現状と課題、今後の取り組みなど共有することができました。さらには他社の取り組みに対し、早速実践する覚悟を各々持ち、ディスカッションは終了しました。

報告の中で企業変革支援プログラムステップ1は「会社の健康診断」であり、課題を見つけるためのものと言われました。見つかった課題は「処方箋」であるステップ2で解決しないといけない、課題が見つかってそのまま放置してはいけないという提起もあり

ました。同友会は三つの目的を含めた同友会理念がありその基本は「企業づくり」と教わっています。事務局はその企業づくりに取り組む会員と真摯に向き合

い、伴走するためにもさらに見識を深め視野を広げる必要があると再認識させていただきました。自分事としてとらえ学びを生かしていきたいと思います。

同友会事務局 山田 幸司

今回は、いつも以上にグループの皆さんに恵まれ、すばらしい学びの機会をいただきました。

第1講から第3講まで、グループディスカッションは、「人」（特に雇用）の問題に焦点が当てられ、各講を深めながらも、本当に二日間の継続性を感じることができました。

広浜会長からは、「人を生かす経営」（労使見解）を深めるコツとして、①自社の社員の顔を思い浮かべながら（それも辞めていった方も含めて）読む。②ワンフレーズ毎に、自社ではどう取り組んでいるか？それを語れるか？自問自答しながら読む。ということを学びました。

①に関しては、同じグループの方がすぐに実践され、「本当だ！ストンと腑に落ちた！今まで難しくてなかなか入ってこなかったのに」と言われたのがとても印象的でした。

また、赤石さんの言葉としてご紹介いただいた、「同友会は、自らの生き方が問われる運動」という、まさに地域に根差した中小企業経営者としての醍醐味は、同友会の神髄として事務局からも声を大にして発信していかなければと痛感しました。

「学んだことは必ず実践する」という強い覚悟を持ち、実践を続けてこられた広浜会長に皆さん敬意を表しながらも、「学んだことでも全てはやらない」と決めている方がいらっしゃったことも今回の大きな気づきでした。つまり、トップの役割として、しないことを決め、自社に合った取り組みを行うことが重要ということです。

今回、二日間を通して学んだことは、リーダーとしての役割です。①先見力 ②判断力 ③説得力を持ち備えているか。特に判断力が試されるのが、先程もふれましたが、「何をするか、しないかを決めること」です。



事務局のリーダーとして、これらの力を養い、何のための同友会なのかを役員の皆さんと共に徹底的に追求するとともに、事務局の展望をしっかりと築いて参ります。

参加させていただきましたことに感謝申し上げます。

PRESIDENT が1年間「中小企業家同友会」を連載



このたび、ビジネス誌「プレジデント」に、2018年4月23日発行号から1年間にわたり同友会の活動とそこで企業変革を行った会員企業が、『実践！会社を良くする社長学』- 4万7000社が集結『中小企業家同友会』パワーの源泉として紹介されることになりました！
執筆は清丸恵三郎・プレジデント元編集長。（本サマリーは「プレジデント」編集部了解の下、作成されています）

V・ファーレン長崎

V-VAREN
NAGASAKI

応援マツト

ダスキン栄進 電話 095-823-7633

瀧川 隆 会員（長崎出島支部）

広告募集

< 4 cm x 9 cm >

複数月 割引	6ヶ月	12,000 → 10,000
	4ヶ月	8,000 → 7,000
	3ヶ月	6,000 → 5,000

各界からの提言

長崎市長 田上 富久



プロフィール

■生年月日：昭和31年12月10日 ■出身地：長崎県五島市

- ・昭和55年3月 九州大学法学部卒業
- ・昭和55年10月 長崎市役所 入所
- ・平成14年4月 長崎市観光部観光振興課主幹
- ・平成16年4月 長崎市企画部統計課長
- ・平成19年4月 長崎市長就任
- ・平成23年4月 長崎市長再任（2期目）
- ・平成27年4月 長崎市長再任（3期目）

■現在就任している主な役職

- ・日本非核宣言自治体協議会会長（平成19年4月～）
- ・平和首長会議副会長（平成19年4月～）
- ・長崎県市長会会長（平成21年4月～）
- ・全国市長会相談役（平成24年6月～）

長崎県中小企業家同友会におかれましては、日頃から中小企業及び地域経済の振興に向けて取り組んでいただいております。厚くお礼申し上げます。

さて、長崎市では、人口減少の克服と長崎創生の実現に向けて、「人」の交流によって地域を活性化させ、雇用の創出と所得の向上を図る「交流の産業化」をキーワードとした取り組みを進めています。

また、時代や環境の変化に対応して長崎のまちが進化していくために、長崎の強みを最大限に活かすこと、長崎に合った暮らしやすさを創り出すこと、その両方の視点を持って、様々な取り組みを進めているところです。

その中で、長崎のまちづくりは次の世代に引き継ぐ基盤づくりの時期を迎えており、まちの形はこれから大きく変化します。

九州新幹線西九州ルートや長崎駅周辺再整備事業、長崎駅西側の交流拠点施設整備、新市庁舎建設、三菱重工業幸町工場跡地開発、商店街の再開発事業など複数の事業が同時に進行しており、これらの動きは交流人口の増加をもたらし、地域経済にも良い影響を与えるものと考えています。

また、長崎市は、交流都市として450年の歴史を刻み、文化を育んできました。その交流に

よって培われた個性を徹底的に磨いて価値を高め、新たな来訪者を招き入れるという点でも大きな変化があります。

昨年11月には「出島表門橋」が架橋し、約130年ぶりに橋を渡って出島に入ることができるようになりました。さらに、今夏、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録が正式決定されると、長崎市は日本で初めて「2つの世界遺産があるまち」になります。

こうした取り組みにより、今後、交流人口の増加が期待される中で、民間と行政との連携はもちろん、民間が主体的に稼ぐ力を発揮することが重要です。すでに様々な民間主導の取り組みも生まれており、「交流の産業化」の芽は、着実に生まれ、育ちはじめています。取り組みが一層活性化していくために、皆さま方と長崎市が進むべきビジョンを共有しながら、オール長崎の取り組みとして着実に歩みを進めていく中で、ビジネスチャンスを見出し、積極的な企業活動につなげていただければ幸いです。

市民と事業者、そして来訪者がWin-Winのトライアングルを築けますよう、多様な視点でご意見を頂戴しながら、地域経済発展のために、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

長崎浦上支部 例会報告

日 時	5月15日(火) 18:30～21:00
会 場	長崎新聞文化ホール・アストピア
テ ー マ	これまで、そしてこれから ～仕事や同友会、人との出会いで得たもの～
報 告 者	Smart 代表者 橋本 裕次郎 会員



今年度最初の報告は、前年度青年経営者会の会長を務められた橋本さんでした。大学卒業後は何をしたいという想いもなかったため、清掃会社でアルバイトをして過ごされました。

その会社の業務縮小に伴い、清掃部門を引き継ぐ形で独立。今年で10年という節目を迎えられました。起業して初めて、会社経営の大変さを感じられたようです。起業当初は、会社存続のために下請け仕事を詰め込み、昼夜問わず現場で働く日々。それでも1年も経たず仕事に行き詰まりを感じ、人脈がないことに気づかれます。

そんな時に同友会と出会い入会されました。同友会の学びを日々実践されていて、また同友会のご縁で仕事の依頼も増え業績は少しずつ上向きに。

報告では、これまで同友会で出会った会員さんからもらった言葉を大切にされていました。また、青年経営者会の会長になってからは、積極的に県外のフォー



ラムなども参加され交流を深められています。そのなかで、経営に関する様々な見方、考え方を学んでおられます。社員の幸せのために休日を増やし、時短に取り組まれていました。また経営計画書なども、社員と一緒に作ろうと模索されていました。自社の強み、弱みなどもしっかり分析され、参加者の参考になったようです。

同友会が大好きな橋本さんだからこそ、会員の皆さんに、「例会に参加して、経営に活かしましょ」と言われ、今年度最初の例会にふさわしい内容になりました。

(文責 岩 素子)

長崎出島支部 例会報告

日 時	5月23日(水) 18:00～20:30
会 場	サンプリエール
テ ー マ	F. デザイン NAGASAKI (株) とは ～飲食業界に対する思い～
報 告 者	F. デザイン NAGASAKI (株) 代表取締役 永石 一成 会員

永石さんは幼少のころから料理人の父の背中を見て育ち、夢だった料理人を目指すべく高校卒業後、関西へ7年修行に行かれました。ホテルや寿司店、割烹料理店での仕事を経験し、家庭事情により長崎へ帰省することになったのですが、そこで待ち受けていたのは長崎の飲食業界の劣悪な雇用環境でした。このまま料理人を続けても夢を抱けないのではないかという思いから飲食店経営を学び、自分の手で同じような若者が夢を抱いて仕事ができる場所を作ろうと決意したそうです。

その後29歳で独立、旬彩ながやを立ち上げられ、



様々な飲食店との交流ができる中で人の雇用についての意識が高まり、料理人だけでなく飲食店に関わる全ての業種が働けるような会社を作ろうと志します。それから1年ごとに3店舗をオープンさせ、試行錯誤の中で自らの飲食店経営に磨きがかかり、基盤であった旬彩ながやを移転、席数を約3倍に拡大されました。その際経営していた飲食店をまとめてF. デザインN



AGASAKI (株)を設立します。

F. デザインNAGASAKI (株)では現在、飲食事業の他に、仕出し、イベント出店事業、飲食店コンサルティング事業、食料品加工・販路開拓事業など多岐に渡って事業展開をされており、今後は長崎の素晴らしさをもっと知ってもらべく首都圏での店舗展開を進めている最中で、「情熱を身にまとい、自分の夢を生きよう」という永石さんの座右の銘の通り、夢に向かって全身全霊を傾けて経営されていることが身に染みて感じました。



グループディスカッションでは語りたいことが多すぎて時間が足りない！との声もありましたが、長崎を拠点に事業を拡げ長崎の発展に貢献したいという発表が多くありました。長崎でどのように雇用を改善させるのか、自分の会社で雇用をどう増やしていくのか、また経営者としての己の考え等、各々が経営ビジョンを見直す良い機会となった例会だったと思います。

(文責 山田 耕大)

大村支部 例会報告

日 時	5月17日 (木) 18:30～21:15
会 場	長崎インターナショナルホテル
テ ー マ	西の果てからの挑戦!長崎から世界を攻める!～(株)亀山電機の挑戦～
報 告 者	(株)亀山電機 代表取締役 北口 功幸 氏



幕末、土佐藩脱藩の浪士で結成した貿易結社の海援隊。その組織の中心人物である坂本竜馬。その生きざま、志をこよなく愛する北口氏。今期最初の5月大村支部例会は坂本竜馬の志(DNA)を受け継ぐ北口氏の報告です。

坂本竜馬に対する北口氏の想い志のもと、1996年にアパートの一室一人から「西の果てからの挑戦!



長崎から世界を攻める!」亀山電機の挑戦(歴史)が始まりました。

坂本竜馬が開いた亀山社中にあやかった社名、海援隊旗:二曳(にびき)をあしらった会社のロゴ、坂本竜馬に対する北口氏の想いがひしひしと形となり、同業者とは違う高度な技術力を有した長崎県が誇る優良企業として、現在成長し続けてます。

北口氏の想いは身内にも表れます。息子さんまで字画は違うが遼馬(りょうま)と名付けられその想いは本気です!

顧客に満足していただける高品質、製品を世に送り、ソフトウェア開発・ホームページ作成・保守点検と日本だけでなく海外の企業と取引を行い精力的に活躍されています。

同業者とは違う事で勝負の土俵は小さくバランスの良い経営を考えておられましたが、伸び悩む時期もあ



り新事業の失敗、リーマンショック、集団退職など経験されました。そうした経験を糧に自ら経営理念を独

学で学び経営指針作成や社員の成長（人材力アップの為）、専門知識の向上に取り組んでおられ、社長の志しを社員と共に考えておられます。今では佐世保、大阪、静岡に事務所を展開し、社員100人を超すまでに成長され、記念パーティーや社長の自宅に招いての食事会など社員とのコミュニケーションを大切にし、その家族の幸せまで考えておられる立派な人柄だと感じました。

最後に社員一同、同じ志を持つ事が会社の発展に繋がると思いました。

（文責 比良 哲也）

諫早支部 例会報告

日 時	5月16日(水) 18:30～21:00
会 場	諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ	ひろがる無限の可能性 ～障がい者雇用の実際～
報 告 者	長崎県立希望が丘高等特別支援学校 進路指導主事 教諭 木下 順子 氏 (株)ゲオビジネスサポート 営業部九州エリア担当 ストアコーディネーター 企業在籍型職場適応援助者 宮本 孝之 氏



諫早支部5月例会は、「広がる無限の可能性」をテーマに障がい者雇用の実際を報告していただきました。座長の寺尾さんより就労機関や実際に雇用をされている企業の取り組みを知り、障がい者雇用を推進する為に2名の方の報告を聞いてくださいとの挨拶。

木下氏の報告では、長崎県立希望が丘高等特別支援学校は、諫早市多良見町に1991年に開校し28年目となる県内唯一の知的障がい高等支援学校で、校訓は、忍耐・練達・希望を掲げて就労のために通学は自力通学を原則（送迎禁止）として様々な教育活動をされています。

職業的自立に必要な実践力を学ぶために①教科学習 ②作業学習 ③生活学習があり、②の作業学習では、ハウスクリーニング、ウエアクリーニング、事務流通、食品加工、農芸、木工、窯業、紙工など様々な作業を習得できます。また、部活動はサッカー、陸上、ウエイトリフティング、和太鼓、美術、家庭、新聞など盛



んに取り組まれています。和太鼓は、地域の行事等に出向き演奏披露をされているそうです。

次に実際に障がい者雇用をされている取り組みとして、(株)ゲオビジネスサポートの宮本孝之さんから報告をしていただきました。ゲオグループ雇用者のサポート管理をする会社で企業在籍型職場適応援助者として九州エリアを担当されています。雇用者の81%が障がい者手帳保持者ですが、90分に1回の休憩や学習期間に観察して適材適所の配置を考慮して高い定着率を実現されています。障がい者雇用は、助成金や支援があり労働人口の少ない時代において魅力ある戦力であると感じました。

障がい者雇用の取り組みで「障がい」とは1人ひとり異なる個性であること。「変え難いこと」も理解すること。平等を目指すのではなく「公正」を目指す。共に学び共に「成長」する機会として取り組む。社内だけで解決できないことは「協力者」の手を借りる。「できること」「できないこと」「苦手なこと」を正しく知り見て気づく。

体調管理に気遣い丁寧な仕事を目標にコミュニケーションとる。などが大切であるという宮本さんのお人柄が伺える報告でした。木下さんの生徒を想う熱い情熱が伝わり、私たちも出来ることから1歩前に進みたいと思う。いや進まなければならないと思う気持ちの良い例会でした。

（文責 張本 洋二）

島原支部 例会報告

日 時	5月17日(木) 19:00～21:00
会 場	HOTEL シーサイド島原
テ ー マ	私の悩みを聞いてください
報 告 者	(有) 生田建設 代表取締役 生田 忠照 会員



生田さんは33歳の時に製薬会社の営業から建設業を継ぐことに。そして間も無く代表であったお父様が体調を崩され入院、しかし経営のことは全く分からない状態で会社の内情を知ることになりますが表向きとは違い大きな借金を抱えている状態でした。そこから悪戦苦闘の日々の連続で、そんな時期に入会したのが同友会でした。

当時は諫早支部で業種も年齢も関係なく、悩みを打ち明けて相談し解決策を教えてもらいながら乗り越えてこられたそうです。

58歳になった現在、息子さんは福祉関係で経験を積み施設のリーダーとして実務を任されているそうですが来年退職され島原に戻り父である生田さんの後を継ぐようになっているとのこと。そこで生田さんが運営されている社会福祉法人瑠璃光会に入り福祉関連の部門を継ぐのか、建設、不動産を継ぐのか又3部門全て今の段階で継がせるのかと数パターンの中からどれが一番ベストなのかをグループでディスカッ

ションし発表しました。各グループからは色々な立場から意見が出て、生田さんもすごく熱心に聴き入っていました。そういった中で生田さんもこれからどう継がせるかについて、いくつかヒントになったようです。

懇親会では当時、諫島支部（諫早、島原の合同支部）で共に学んだ会員さんも諫早支部からお越しになられて、いつも以上に盛り上がりました。そのメンバーから当時の話題で、新築して数日の生田さんの焼き肉店が火事になった時、同友会のメンバーがすぐに駆け付け焼けた店舗の前で全員で「生田頑張れ！」と肩を組んで大声で応援されたという話を聞くことができました。

現在は通信や色々なサービス等で無駄が無くなり当時と比べるとかなり速いスピードで私たち経営者は決定したり変化する環境になっています。しかし今回の例会で私が一番印象に残った言葉は「良か子になりすぎんで泥試合ばせろ！」ラガーマンだった生田さんらしい言葉でした。私たち若手にとっても非常に胸が熱くなった5月例会でした。

(文責 横田 健)



佐世保支部 例会報告

日 時	5月25日(金) 18:30～21:00
会 場	アルカス SASEBO 3F 大会議室
テ ー マ	佐世保市における「インバウンド消費の拡大」
報 告 者	佐世保市職員 (株) 橋高 取締役社長室長 橋高 裕季 会員

今回の5月例会は、通常の例会とは異なり、佐世保市職員の皆さまにも参加ご報告いただき、同友会との

ディスカッションの中で、佐世保市における「インバウンド消費の拡大」のための、新たな発見・気づきを出し合う場にしたい、という強い想いのもと実施をしました。

まずは、佐世保市で実際に取り組まれている「インバウンド消費」への対策に対して、市が抱えている課題を発表していただきました。テーマは①佐世保観光の情報発信について ②観光客に向けた市内周遊について ③中心市街地における需要取込について ④佐世保の特産品PRについての4つです。

そして今回の例会はディスカッションについても



工夫を凝らしました。具体的には2部構成にして、1部はブレインストーミングの場とし、「質より量」「批判しない」「突飛なアイデア歓迎」「パクリ歓迎」のルールのもとで、たくさんのアイデアを出してもらいました。そして2部では、たくさん出たアイデアからベスト案の一つを選び、その結論に根拠をつけて、各グループで発表を実施しました。これまでの例会では、意見はたくさん出たが、発表時間までにまとめきれなかったという経験をたくさんしてきたことから、今回は時間が短くとも明確な結論を出すという想いで臨み、よりタイムマネジメントを意識して運営をしました。また、ディスカッションにあたっては、模造紙を用意し、全員が参加しやすい雰囲気作りにも気を配りました。結果として非常に活発な議論ができ、参加者全員が新たな発見・創造が出来る例会になったと感じております。

最後に市の予算決めで多忙を極めていた中、ご出席をいただいた佐世保市職員の方々ならびに、同友会会員の皆さまの温かいサポートに対し、心からの感謝をお伝えしたいです。ありがとうございました。

(文責 橋高 裕季)



北松浦支部 例会報告

日 時	5月17日(木) 18:30~20:30
会 場	サンパーク吉井
テ ー マ	自社の30年歴史と経営計画
報 告 者	(株)グッド・ハウス 代表取締役 鬼塚 秀典 会員

設立30周年を迎える、松浦市が本社の(株)グッド・ハウスは、鬼塚さんが21歳の創業から、株式会社の設立、現在に至るまで様々な出会いや経験、何度となく立ち塞がる困難を家族や社員の方と乗り越えてきた思いを発表されました。

建設業を主とし、「住む人たちが楽な家」「住む人を思いやる家」を一生懸命に考え、住む人たちから喜ばれることを考え家づくりをされています。

32歳で設立した会社名「(株)グッド・ハウス」は、お客様に仕事を褒められる事に喜びを感じ、今後もお客様に喜ばれる「良い家」を作る！という思いから決められたそうです。それから、家を作るために必要な水道工事、電気工事、宅地建物取引業と事業を拡大し、



現在に至っています。

経営理念について、すでにあった経営理念を2017年度に北松浦支部で行った経営指針実践セミナーでさらに磨きをかけられています。経営理念を1. 社員とその家族を幸せにする。2. お客様を幸せにする。3. 地域社会を幸せにする。と掲げられており、人を思いやる鬼塚さんの姿勢がよく表れています。また、「幸せ」の定義も、社員の方によく理解してもらい共有できるよう「身近な人の役に立ち、よろこばれ、感謝されるものである」と明確に定義をされてい



ます。社員とその家族を大切にする鬼塚さんの姿勢は、ホームページを見た求職者の方から多数面接希望が来るなど、たくさんの人に思いが伝わり、社員数の増員にもつながっています。

最近では、住宅を求める人が買いやすい家を企画し、シンプルな外観で、快適設備等にコストをかけた「建売住宅」を手掛け、多数の購入希望者が現れるほど人気を呼んでいます。

(株)グッドハウスではお客様の困ったにすぐ対応

できるよう、社内には各専門の技術者が常駐しています。チラシや看板、広告宣伝のためのデザイン専門の社員のかたも社内におられ、鬼塚さんの思いをすぐ形にし、表現・発信できる体制も整っています。

また、地元のカフェで、お客様と住宅の間取りや建築デザインについて語り合う勉強会「ハウジングカフェ」というイベントも定期的開催され、5月には第6回も予定されており、大変好評だそうです。最後に、鬼塚さんは趣味で野菜作りもされており、自身で作ったたまねぎやさつまいも等をお客様に配り、お客様に喜ばれる事がうれしいと笑顔でおっしゃっていました。

お客様や社員の方々、たくさんの人をきめ細かな心遣いで思いやり、長年にわたり経営をされている鬼塚さんの発表は多くの気づきと学びをいただきました。これからも鬼塚さんの周りには、幸せが増え続けていくものと思います。

(文責 上野 健太郎)

五島支部 例会報告

日 時	5月16日(水) 18:30～21:00
会 場	観光ビル はたなか
テ ー マ	経営問題から学んだ事 ～みんな(職員)で幸せになる為に、同友会での学びを生かす～
報 告 者	(株)おおあらの里 所長 宮田 秀樹 会員



今回、新入会員としてバッジを受贈されたのは、(株)ダイキョープラザ福田店 店長の高細さんです。今後の活躍を期待いたします。そして例会で報告するのは宮田さんです。初めて報告にチャレンジするという事で緊張しておられましたが、いざ始まると先ほどまでの不安な様子を払拭させる力の入った報告となりました。

報告の中では「学んだことを実践してみた」という事で、同友会の学びが会社に良い影響を与えたという



内容です。しかし会社での問題点が全て解決した訳ではありませんが、報告後のグループディスカッションでヒントが見つかった事かと思います。どこの経営者も頭を抱える問題ですが「社員の幸せとは何か？」が今後の同友会での課題になるのではないのでしょうか。

(文責 浦上 純人)

青年経営者会 総会報告

日 時	5月12日(土) 18:30～21:00
会 場	ホテルニュー長崎
内 容	定時総会

第35回定時総会を開催させていただきました。ご来賓には理事の皆様をはじめ、副支部長、福岡同友会、北九州青年懇話会、青年経営者会OBの方々駆けつけていただき、また多くの会員の皆様と共に新出発の総会となりました。席上、2名の方が入会してくださり大変盛り上がった総会となりました。

5月は長崎浦上支部、長崎出島支部、大村支部に訪問して新会員が増え、体験入会を含む会勢42名。新たに大村支部、諫早支部、佐世保支部に青年経営者会メンバーが誕生し残りは島原支部、北松浦支部、五島支部となりました。目標の期末までに100名。

6月は慶祝例会等ありますが多くの支部を訪問させていただき、新入会者を増やしていきたいと決意しております。また6月は青年経営者会も慶祝例会となります。

7月の通常例会では青年経営者会メンバーで「戦略会議」をテーマに行い、「明日から使える学び」を中心に親会とはひと味違う例会を運営して参ります。

更に役員会などは時間を有効活用する為、インター

ネットを活用した会議を実施予定。次世代の長崎同友会構築を目指して参ります。

(文責 安井 忠行)



What is 共同求人？

共同求人委員長 橋口 久

共同求人委員会連載コラム 第4回

共同求人委員会、県4委員会の横断的連携が始動！

<共同求人委員会が始動！>

- ・5月30日に、共同求人委員会の会議を開催。
- ・各支部9名の委員長・副委員長と事務局が参加し、共同求人委員会が始動しました。

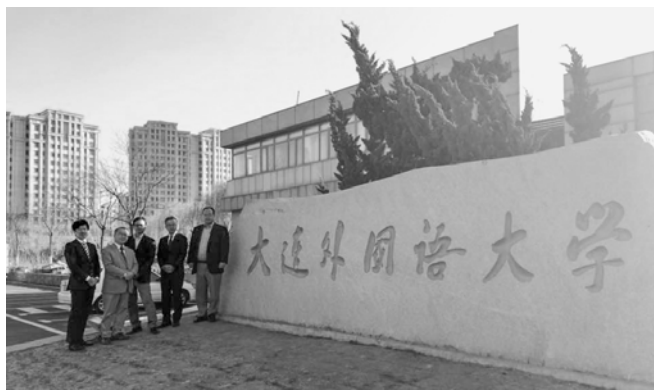
5月30日に第1回目となる、県の共同求人委員会が諫早市社会福祉会館で開催されました。各支部より委員長・副委員長が集まり、事務局を含め10名で新生委員会をキックオフしました。今後、各支部での共同求人委員会活動も始動します。会員の皆様のご協力をお願いします。ぜひ各支部で共同求人委員会を盛り上げていってください！

<県4委員会の横断的連携の始動！>

- ・5月7日、6月7日に県の経営労働委員会・共育委員会・ダイバーシティ委員会・共同求人委員会委員長が集まり、県4委員会の横断的な連携をスタートさせました。
- ・今年度は、県レベルだけではなく、支部レベルにおいても4委員会が横断的に連携を組んでいきます。

毎月理事会開催前の1時間、県4委員会の委員長が集まり、熱い議論を交わしています。これまでの県の委員会は比較的縦割りの運動が中心でしたので、今期の当該活動は長崎同友会史上画期的な取組みと言えます。4委員会のミッションは、MS (Member Satisfaction)、つまり会員満足の向上です。同友会も企業経営と同じで、会員の満足なくして、会員企業が三つの目的を目指した同友会運動はできません。MS向上を目指して、これまでにない様々なプロジェクトを始動させます。4委員会の取組みにぜひご期待ください！

佐世保支部 大連外国語大学大学生と触れ合う、大連視察ツアー 参加報告



2018年度より、長崎県初となる共同求人委員会が発足しました。2017年度は、県では共同求人準備委員会として活動し、支部レベルでは、佐世保支部が準備委員会の位置付けで、共育・共同求人委員会を発足。他支部に先立って、県の準備委員会下の実験委員会的な活動をしていました（2018年度からは佐世保支部では共同求人委員会として独立）。

その実験の1つとして、2018年5月25日より3泊4日で、中国遼寧省にある、大連外国語大学を訪問し、日本語を専攻する大学生との交流の場を設けました。

共同求人主題として、地元の若者を地域に残す活動があります。しかし、それを基軸としながらも、これからは多様性ある共同求人にも実践していかなければなりません。その中には、外国人雇用も当然含まれます。現在の外国人雇用は、留学生の採用、研修生の受け入れが主流で、県内会員の中でも既に実績を持つ企業も多くありますが、今回は中国大連での活動を通して、海外の学生を直接採用するルートづくりのきっかけを模索してみました。

長崎同友会から参加したのは、佐世保支部より、(有)エムズの川下眞文会員、(株)長崎地研の村山隆之会員、昌明機工(株)の中島禎雄会員、北松浦支部より、(株)稲沢鐵工の稲沢文員会員、そして私橋口の5名。

訪問した大連外国語大学は、1976年に設立された、中国国内でも大変レベルの高い高等教育機関で、今回は、日本語学科で日本語を学ぶ大学2年生、3年生24名を対象に、90分の特別授業を開催しました。

特別授業では、まず橋口が長崎県の概要と、日本経済は中小企業が支えている主旨を話しました。24名の中に長崎外国語大学に留学した経験を持つ学生が1名いましたが、その他は長崎県について全く知らない学生ばかりで、「伝える大切さ」を痛感しました。一方で、中小企業に関するプレゼンでは、日本よりも起業家精神がある人財が豊富であること、そして中小零細企業の企業数が多い商人風土を持つ国であるためか、スムーズな導入ができました。

その後、今回の参加者5名が、パワーポイントを使いながら、各自自社の会社・事業紹介をしました。しかし、同友会会員による授業は、単なる会社紹介に留まらず、自社の経営理念やビジョンなどを伝え、同友会会員らしい授業内容となりました。授業の後は、学生との質疑応答の時間を取り、学生との交流を深めました。大学2年生、3年生といえども、日本語力はN2レベル以上で、通訳を介さずに交流することができ、大学のレベルの高さに驚きました。中国の大学生は、アルバイトをする者は少なく、大学は正に高等教育を学ぶ場として勉学に励むとのこと。よって、日本の大学生ほど社会経験は積めないものの、4年間の学びの深さは日本よりも総体的に深いと感じました。

先述の通り、長崎同友会の共同求人委員会は、地元の若者を地域に残す活動を基軸としますが、大連外国語大学との交流も継続します。今回のような年1回の出前授業を基本ルーティンとし、大学との提携が整い、中国人人財を求める県内企業が出てきた暁には、学内にて、合同企業説明会、採用面接を開催したいと計画しています。

また、大連滞在期間中、大連に進出している日系企業2社、ハウス食品(株)の現地法人である、大連好侍食品有限公司(大連ハウス食品)と、長野県のコトー精密(株)の現地法人である大連湖東精密有限公司を視察し、2社の社長と意見交換の場も設けました。

中国を始め海外の人材を直接採用する時代も、それが人材確保の主流にはならないものの、1つのルート





として社会に認知される日が来るはずですが、それが5年後か10年後かはわかりませんが、来るべき日を見据えて、まずはどんな化学反応が生まれるか、今回はそんなゼロイチの試みでした。結果として、このような優秀な人財が海外にいることを知らずして人財不足と嘆くのは井の中の蛙であることに気づかされました。



「経営者が海を越えて世界を知る行動力」と、「現地で得た世界の尺度で自社を測る視点」。これからのグローバル社会におけるダイバーシティ経営を目指す私たちにとって大切なキーワードになるかもしれません。

(文責 橋口 久)

SNS活用についてのアンケート 結果報告

同友会活動にどのようにSNSを活用しているのか、各支部の情報広報委員長からアンケートにご回答いただきました。

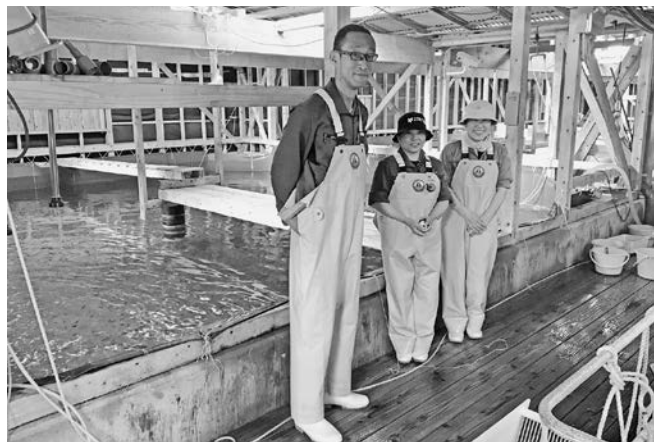
活用事例を参考にいただき、今後の皆様の同友会活動のさらなる活性化につながれば幸いです。

(文責 情報広報委員長 浦郷 学)

	Q 1. 支部内でのSNSの活用	Q 2. 活用しているSNS	Q3. SNSを活用した事例
長崎浦上支部	活用していない		
長崎出島支部	活用している	LINE	役員会の連絡網・出欠
大村支部	活用している	LINE	運営部(例会委員会、総務委員会、情報広報委員会)とりまとめ
諫早支部	活用している	LINE	例会時の出欠のとりまとめ、各役員会の案内
島原支部	活用している	LINE、Facebook	・例会時の出欠のとりまとめや役員会の連絡網 ・役員会承認事項依頼(各種案内や企業チラシの支部ライン掲載等) ・各種セミナー等の案内 ・同友会会員間での資料受け渡し、共有(Eメールと同じ利用方法) ・例会等の同友会活動の広報
佐世保支部	活用している	LINE、Facebook	・LINEでは例会の案内・支部の連絡事項・各会員の活躍・イベント情報などを積極的に流している。例会については案内だけ流し出欠についてはなるべくe.doyuにて行うように促している。 ・Facebookは佐世保支部のページを持っており、そこに例会の案内と様子、各社の経営計画発表会の様子などを流している。
北松浦支部	活用している	LINE	支部内の役員会や例会の出欠連絡
五島支部	活用していない		

事務局企業訪問

今回は島原支部 河原邦昌さん（（有）島原種苗）にお話を伺いました。



<（有）島原種苗>

2003年11月に設立。南島原市有馬町でトラフグ・ヒラメ・カワハギの稚魚・成魚の生産・販売を行っています。

【独立するまで】

大阪府出身の河原さんは幼い頃から海が好きで、海に携わる仕事がしたいと思うようになり、水産大学校に進学し水産動植物の専門知識や資源の培養に活用する技術を学びました。卒業後は魚市場に就職しますが、もっと海に近いところ・生産の現場での仕事がしたいと思い、長崎の会社へ転職してトラフグの陸上養殖の管理者及び営業となりました。ある日営業先のお客さんから、島原の稚魚屋さんが廃業するので引き継いでやってみたらという話があり、「そういうことでいたら面白そうですね」と冗談話だと思って答えたところ、稚魚屋さんにそのまま話が伝わり、本当にやってみないかと言われました。

河原さんは種苗生産の経験もなく不安で悩み、同業の方に相談に行きますが厳しい業界であるため皆さん口を揃えてやめたほうがいいよという返答。しかし友人に相談したところ「失敗しても借金が1000～2000万円、そんなもんなら高級車を買ったと思ってやってみたら」という言葉に後押しされ、せっかくの人生チャレンジしてみようと思い種苗生産を引き継ぐ形で独立しました。

初めは河原さんと当時場長をしていた方が残り2人でのスタートでした。河原さんは種苗生産にあたり、とある師匠からの教えである「苗半作」という考え方を大切にしました。これは苗の善し悪しでその後の作物の育ち方に大きく影響するということ。つまりは苗を育て上げるまでがとても重要な工程であり、その後



は育てる人間の力が及ばないところが多分にあるということです。その考えを基に取引先に喜ばれる種苗が何かと考え、成長の速さも意識しますが歩留まりが良い強い魚でもなければと考え生産に取り組みました。そのために河原さんは種苗生産を「お

母さんの仕事」と捉え、稚魚の母親になって、母親が我が子に接するように、献身的に注意深く観察するという行動指針を掲げました。そうすることでわずかな変化に気付くことができ、その気付きが仕事の成果につながり、歩留まりが良い種苗生産を実現することができました。結果、取引先からも河原さんのところの種苗は成績が良いと評価され、多くの養殖業者の方に買ってもらえるようになりました。そして独立して16年目の今では、様々な苦労もありましたが社員が10名になるまで成長しました。

【同友会に入会して】

経営の勉強をと思い同友会に入会した河原さんは同友会活動が続ける中で、経営理念の成文化の重要性を感じて模索していましたが、作成に苦労していました。しかしちょうど取材に伺った1ヶ月前に言葉として落ち、成文化することができました。

経営理念「海の恵みを未来へ、命の繋がりの中で」

河原さんは「利益は必要な分だけ取り、残りは社員やその家族や子どもたち、そして社会に繋げていきたいといけない。子ども達に素晴らしい仕事だと胸を張って言えるようにしたい。そして社員の子も達が就職したいといってくれるような会社になりたい。」という理念に込めた思いを語っていただきました。理念を作ってまだ少しの時間しか経っていませんが、自分がしたいことや判断の基準が明確になったと感じているそうです。

【今後の展望として】

河原さんが今感じるのは若い世代がお金よりもプライベートの充実を求めていること。とはいえ、家族を持った時や老後のことを考えてある程度の給与を出せるようにしてあげたいと河原さんは思っており、夢は年齢に0をつけた年収を出すことだと語られました。

そして今後は種苗と養殖にさらに新たに2つの事業展開を計画中とのことで、将来的には事業ごとに別会社として、各々を今の社員さんに承継してもらいたい

という夢もあります。

【企業訪問を通して】

企業訪問では普段目にすることができない、種苗生産の現場や養殖場を泳ぐトラフグやヒラメ、そして種苗の歴史までお話しいただき大変勉強させていただきました。

河原さんは種苗生産について、「実際にやってみたら高リスクでリターンはそんなになくて…。本当に好きじゃないとやれない。」と話されていましたが、河原さんが種苗生産にやりがいを感じて事業に取り組む姿や今の仕事に満足することなく新しいことにチャレンジする姿勢はお話を聞きながらもワクワクし、刺激をいただきました。新しい事業が実現する日が楽しみです。

これからの河原さんの活躍を祈念いたします。



<会社概要>

(有)島原種苗

住所：〒859-2411 長崎県南島原市南有馬町甲1213

TEL：0957-85-2112 FAX：0957-85-2112

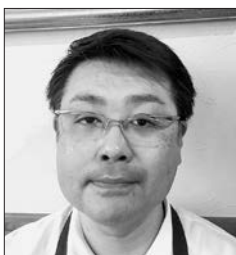
HP：https://www.fukunotane-shimabara.co.jp

(文責 田口 友廣)

新入会員の皆さんです < 5月入会・交代 >

(敬称略)

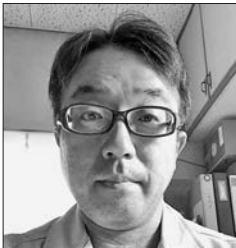
<入 会>

支 部 名	佐世保支部			
氏 名	かわの ゆきや 河野 有希也			
企 業 名	洋食屋 ル・フルーヴァン			
役 職 名	代表者			
企 業 住 所	〒 857-0875 佐世保市下京町 10-7 シネマ太陽京町ビル 6 2F			
T E L	0956-23-8935	F A X	0956-23-8935	
業 種	飲食業			
企 業 P R	ユキヤとヨーコの夫婦二人で切り盛りする気さくな洋食屋です。季節毎に変わる一品料理からセットメニュー、カジュアルに楽しんでいただけるコース料理まで取り揃えております。ジャズが流れる店内、調理歴 25 年でソムリエの資格を持つシェフの美味しい料理とワインを愉しんで下さい。			
スポンサー	山口 富士雄			

支 部 名	北松浦支部			
氏 名	まえかわ こうじ 前川 浩二			
企 業 名	西海みずき信用組合 佐々支店			
役 職 名	支店長			
企 業 住 所	〒857-0311 北松浦郡佐々町本田原免 84-1			
T E L	0956-62-2118	F A X	0956-62-2110	
業 種	金融業（信用組合）			
企 業 P R	平成30年1月29日、佐世保中央信用組合と長崎県民信用組合が合併して新しく生まれ変わりました。「地域に必要とされる金融機関を目指し、地域の皆様の豊かなくらしづくりと地域社会の発展に貢献します」を経営理念とし、健全で強固な経営基盤を築き上げる決意です。			
スポンサー	井手 眞悟			

支 部 名	五島支部			
氏 名	たかほそ けいいち 高細 圭一			
企 業 名	(株)ダイキョープラザ			
役 職 名	福江店 店長			
企 業 住 所	〒853-0041 五島市籠淵町2163			
T E L	0959-74-2152	F A X	0959-74-1024	
業 種	小売(スーパーマーケット)			
企 業 PR	単なる食品スーパーとしての役割りにとどまることなく、様々なイベントを行うことで、お客様と一緒に地域を盛り上げる、そんな超ローカルスーパーを目指してまいります。			
スポンサー	辻 千穂子			

<交 代>

支 部 名	佐世保支部			
氏 名	かわじり たつや 川尻 竜也			
企 業 名	(有)勝設計			
役 職 名	代表取締役			
企 業 住 所	〒 857-0831 佐世保市須田尾町 21-12			
T E L	0956-33-4909	F A X	0956-33-4920	
業 種	生産設計(船舶、製缶(現図))			
企 業 P R	主に造船関連を中心に生産設計・現図業務を行っております。 品質を第一に考え信頼される会社を目指しベテラン・中堅で頑張っております。			
前 会 員	七種 勝			

6月理事会 報告

6月7日(木) 19:00～21:40
つくば倶楽部 出席28名 欠席3名

開会挨拶 (抜粋) - 金井代表理事

役員研修会、中同協中小企業憲章・条例推進月間キックオフ会議、幹事会と多くの行事に参加しました。キックオフ会議は会員175名、国家議員25名、国会議員の秘書が14名の参加でした。中小企業憲章を国会で決議しようということや中小企業の日について話が及びました。翌日は朝から九州沖縄ブロックの会議、午後から中同協の幹事会がありました。少ない時間の中でしたが、仲間づくりについてグループディスカッションがあり、青年部や女性部が盛り上がりつつある同友会は活動も活発のようでした。また、新支部を作ることも大切であることが確認されました。支部分割等も考えながら進めなければなりません。また、昨年度において佐世保支部が会員数純増36名で全国トップとなっており、長崎同友会は全国的に見ても活動が活発だと感じました。

仲間づくりについて

1) 入会・退会・企業名変更の承認について -
8名の入会、2名の企業変更、8名の退会を承認

2) 仲間づくりの進捗状況・具体的活動状況について
・原田仲間づくり委員長総括 -
5月の委員会で五島支部以外の会員に参加いただき、ツールの使い方や仲間づくりの目的について説明しましたので、各支部の役員会や例会で確認をお願いします。仲間づくり1000名を達成できれば、日本一の増強率になると思います。長崎全研で金井代表を男にしたいと思いますので協力をお願いします。

協議・承認事項

1) ビジョンについて(5月理事会を受けて) - 川上ビジョン委員長
5/21に委員会を開催。第4次ビジョンの冒頭にある「私たち中小企業が長崎を牽引している!」については、まだ達成できていないので、5次ビジョンでも掲げることを確認。提案中の「8つのビジョン」については、ビジョン到達への「8つの柱」と変更。

2) 役員研修会について(9月8日(土)) - 中村副代表理事(急遽欠席のため、事務局田口主任)
(今回提案内容)
・会場、内容、タイムスケジュール、「人を生かす経営」についても学ぶ時間を設ける
→提案内容を承認

3) 経営フォーラムについて - 村上実行委員長(担当・佐世保支部)
(前回決定事項)
・開催趣旨
・メインテーマ
「変化と挑戦こそが、中小企業の成長を後押しする原動力!!」
・サブテーマ「日本の西から中小企業の元気を全国へ!!」
・開催日時(10月26日(金))
・開催場所(九十九島ホテル&リゾート フラッグス)
・分科会の方向性(変化・挑戦・地方創生・人財・見学(ジャパネットたかた))
・記念講演講師(徳武産業(株) 十河孝男(そごう たかお)氏)(香川同友会)
・動員目標(300名(記念講演400名))

(今回提案内容)
・スケジュール、分科会報告者と大きなテーマ、参加費 - 6,000円(一律)、目標 - 会員・ゲスト320名、来賓20名、支部別目標、予算

(総じて)
提案内容を承認。支部別目標については役員会で協議後、役員会翌日に事務局への報告を依頼
また詳細については実行委員会一任とし、都度理事会で報告する。

4) 同友会リーフレット改定について - 浦郷情報広報委員長
(提案) 新候補 - 北松浦支部 富川会員 → 承認

5) 理事会議事録の流れ 変更提案について - 山口専務理事
(提案) 専務理事の確認 → e.doyu ファイルライブラリにアップ
(現状) 専務理事の確認 → 理事会メーリングに流し、2～3日かけて全理事の確認を得る
→ e.doyu ファイルライブラリにアップ
→ 承認。修正がある場合は事務局へ連絡し、速やかに修正をする。

6) 入会時配付書籍 変更の提案 - 山口専務理事
(提案) 「人を生かす経営」(中小企業における労使関係の見解)と「同友会がよくわかる」に変更
(現状) 「同友会運動発展のために」
→ 承認

報告・連絡事項

1) 県本部・支部・委員会等の活動状況について
【青年経営者会】
11月沖縄青全交の際に、長崎同友会青年経営者会の35周年事業を沖縄で行います。ぜひこの機会に青年経営者会にご参加ください。

【情報広報委員会】
県HPの支部・委員会のコンテンツにぜひ開催報告等の投稿をお願いします。

【仲間づくり委員会】
全県下一斉仲間づくりの日の開催を開催します!
第1回 8月6日(月)
第2回 11月14日(水) (長崎同友会創立記念日)
第3回 11月17日(木)
・訪問先紹介カードは全支部で共通のものを使用
・支部仲間づくり委員が仲間づくりに奔走するのではなく、支部会員の協力を依頼
・佐世保支部の実績として新入会員向けの歓迎会とすると参加率が良かった。また歓迎会だけでなく、「同友会とは」という話を30分ほどして欲しい

(時政策委員長より補足)
中同協幹事会にて仲間づくりについてグループディスカッションを行った。全国では会員数が2010年から9年連続純増。長崎も9年連続純増と、全国を牽引している。東京同友会では、会員外紹介の入会が多く3割を超えている。クロージング能力が足りないのではという話もあり、クロージングに特化した研修を行う予定もある。ある県では同友会が肌に合う人しか声をかけていないのではという意見があった。また、雑誌プレジデントでの同友会の記事での効果があるようだ。プレジデントを強力な勧誘ツールとして使ってみてはどうか。

2) 例会について(更なる例会の充実をめざして) - 本多例会委員長
・目標(出席率・返信率)と6月例会について各支部にヒアリング

(本多例会委員長より)
・どの支部も会員数が増え大変かと思いますが、例会の狙い等を伝え出席率向上に向けお願いします。
・島原支部では会歴が長い方の報告がありましたが、1度報告した方でも違う報告や学びがあると思います。また会歴が長い方の報告では、普段出席しない人も出席するということもありましたのでぜひ検討ください。

(金井代表理事より)
例会は同友会の1丁目1番地、ここがしっかりしないといけません。しかし班編成をしているなど聞きますが、これだけ例会に向け注力しているにも関わらず、出席率が50%に届かないのはおかしいと思います。本当に大変だと思いますが、続けなければ結果はでません。粘り強く活動していけば結果につながります。

3) 5月24・25日(木・金)中同協 役員研修会兼九州沖縄ブロック支部長・支部役員研修交流会(参加報告)
(金井代表理事)
第1講の鋤柄さんの報告の際に座長をし、今回1番学んだのは私だと思います。

終了後、同会場にて、
「働く環境づくりのガイドライン～経営指針を全社一丸で実践する

(宇土経営労働委員長)

今回は試案が発表されました。試験運用をして、皆さんから意見をお願いします。『働く環境づくりのガイドライン』P45のチェックリストを確認し、ぜひ就業規則を見直してください。試案についての意見の締切は中同協に9月5日までとなっていますので、8月中にご意見ください。

また、経営指針実践セミナーを今年度も行います。今回は経営者塾として、財務や就業規則についても学びます。せっかくの同友会の良さを知っていただくため、例会だけでなく委員会として勉強の場を提供したいと思います。『働く環境づくりのガイドライン』について分かりにくいということがあれば、役員会に参加し説明しますのでお呼びください。『働く環境づくりのガイドライン』はe.doyu ファイルライブラリの経営労働委員会の中にアップされています。

4) 中同協 中小企業憲章・条例推進月間キックオフ会議(6/5)・第5回幹事会(6/6)

九州沖縄ブロック代表者会議(6/6) 参加報告

ー金井代表理事・山口専務理事(6/6のみ)・時政策委員長・山田事務局長

(時政策委員長)

全国で10名以上純増している支部として、1位が佐世保支部、14位が長崎出島支部でした。また市区町村ごとの組織率を見ると、10%以上が31市町村、その中の1つが大村市でした。これは誇るべき数字です。しかし実際に大村には個人事業を含めると、2,400事業所があり、その5%の約100社を大村支部は目指すべきではないでしょうか。また、中小企業憲章・条例推進月間への意識づけとしてポスターがあるので、ぜひ活用ください。この中小企業憲章を基に各県市で条例ができていますが、長崎ではまだ5か所に留まっています。大村市においては条例を基に振興会議が開催され、施策に生かされています。この振興会議のメンバーには同友会メンバーがいるので、同友会の意見もしっかりと反映されています。また、市の職員からも施策についての相談を同友会が受けるような関係ができています。ぜひ条例づくりを進めていきましょう。

5) 第49回中小企業問題全国研究集会についてー松尾実行委員長

(山田事務局長より)

6月6日中同協幹事会において、金井代表が概要案を提案し承認されたことを報告

6) 中同協 主要行事の参加状況<>は長崎全研キャラバン対応組織

6月21・22日(木・金)	女性経営者全国交流会／埼玉 <県南>／10名
7月5・6日(木・金)	定時総会／宮城 <理事>／目標30名
8月24日(金)	組織強化・会員増強全国交流会／東京
9月13・14日(木・金)	人を生かす経営全国交流会／宮崎 <県北>／目標30名
9月20・21日(木・金)	役員研修会／徳島
11月29・30日(木・金)	青年経営者全国交流会／沖縄 <青経・一般会員>
7月18～20日(水～金)	※全国事務局員研修会／広島
12月7・8日(金・土)	※九州沖縄ブロック事務局研修交流会／長崎

7) 会費についてのお願いー上野財務委員長

規約では会費は銀行口座引落となっており、強制はできないができれば協力いただきたい。

8) その他

・5月22日「企業と高等学校進路指導担当者との情報交換会」参加報告(峰事務局次長)
高校は特別支援学校等含めて33校。企業側は約180社。

・書籍発刊のお知らせ

「経営者を叱る〜学んで実践し続けてこそ〜」

中同協 相談役幹事 鋤柄 修氏 1,400円

「第48回 全研(兵庫) 報告集」1,500円

「陶冶」(とうや)

愛媛同友会 前専務理事 故鎌田哲雄氏 1,000円

・橋口共同求人委員長よりチラシ作成の提案

本日の4委員会(経営労働・共育・ダイバーシティ・共同求人)合同会議で、同友会の売りは勉強であることを確認。現在、4委員会合計で年間15回の勉強会が予定されている。例会だけでなく、経営者の学校としてどのようなメニューがあるのか体系的にまとめてチラシを作成する。8月6日の増強デーまでに作成しますので、増強のツールとしても活用いただきたい。

また、東京同友会のHPでは勉強が1番目につく、福岡同友会のHPでは同友会に入ることができるのが7つあり1番に経営指針がある。長崎同友会も時代に合ったHPの見せ方の検討が必要。

※次回予定確認 7月3日(火)つくば倶楽部

会員動向

●企業住所等変更 印東 晃 会員 (長崎浦上支部)

新会社名：(株)印東 新役職：代表取締役

会 員 数 (6月1日現在)

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	150	130	125	100	100	200	55	45	(1000)
期首	113	105	87	79	66	160	43	31	684
現在	112	103	88	82	66	163	44	32	690

退会者 (敬称略)

会員名	会社名	支部名	入会年月
有田 佳代	(有)長崎パイプクリーニング	長崎浦上	2016年10月
末次 眞	(株)長崎ベニヤ	長崎浦上	1981年 2月
開田 竜	(株)SEIBU	長崎浦上	2016年 1月
松尾 良	(有)山城屋	長崎出島	2009年 8月
吉田 一	クリーンアップ Bee-1	長崎出島	2013年12月
今村 早苗	SPROUT	諫 早	2018年 3月
馬渡 孝浩	(株)馬渡農園	諫 早	2018年 4月復会
近藤 米明	西海みずき信用組合	佐 世 保	2015年 6月

<お詫び> DOYU ニュース 21 (5月号) において、「各界からの提言」の記事内で大村市産業支援センター センター長 若杉誠司様のお名前に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。大変申し訳ございませんでした。

「お知らせ」

37年もの長きに渡り、常に先頭に立ち、長崎同友会を牽引してくださった末次 眞さんより「御礼」として寄付金10万円をいただきました。(長崎同友会のおかげで今があるからという意味での御礼です) ありがとうございます。会の発展のために有効に使用させていただきます。たいへんお世話になりました。いつまでもお元気でいらしてください。

「新事務局員紹介」

4月11日より入局させていただきました、吉田藍子と申します。
経理及び内部全般として事務局内での業務を担当しております。会員の皆様と直接関わる機会は少ないですが、朝礼での報告などを通じて、皆様の日々の活動について多くのことを学ばせていただきます。一日も早く業務を覚え、要望・相談にお応え出来る事務局の一員を目指し頑張っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

7月例会案内

他支部の例会情報は、ホームページや e.doyu から閲覧・参加申込可能です。

●長崎浦上支部

日 時 7月18日(水) 18:30～21:00
会 場 長崎新聞文化ホール・アストピア
テ ー マ 波佐見焼を世界へ！地域ブランドの経営戦略
～お客さま目線で考えた発想転換！競争しながらの共存共栄の道～

報 告 者 白山陶器(株) 代表取締役
松尾 慶一 会員(佐世保支部)

昨年度まで代表理事を務められ、来年2月に開催される全研in長崎の実行委員長を務められる白山陶器(株)代表取締役 松尾慶一さんの報告です。松尾さんは、創業1779年歴史ある会社の8代目として41歳で社長に就任。その後2、3年で経営不振に陥ります。そんな折、展示会に出展され反響を得たことで転機が訪れます。それはお客様との接点を持ったことで、自社製品の自信に繋がり、お客様目線で販売する大切さに気づかれます。そこからの経営回復。また産地が疲弊する中で、自社だけでなく、波佐見焼を地域ブランドとして育まれた経緯などを報告していただきます。

●長崎出島支部

日 時 7月25日(水) 18:00～20:30
会 場 サンプリエール
テ ー マ 未定
報 告 者 (株)野田武一商店 代表取締役
野田 洋市 会員(佐世保支部)

●大村支部

日 時 7月26日(木) 18:30～21:30
会 場 長崎インターナショナルホテル
テ ー マ 官×民×創×論(カンミンソウロン) 2018
～キャリア教育の可能性～

報 告 者 大村市長
園田 裕史 氏
NPO法人 家族支援フォーラム 理事長
米田 順哉 氏(愛媛同友会 代表理事)

大村支部では恒例となった大村市長を交えての「官民創論2018」を開催。今年のメインテーマは「キャリア教育」です。今年の特別ゲストは大村市長 園田裕史氏と愛媛県中小企業家同友会 代表理事 米田順哉氏です。人口減少が続く中で、「地元へ人材を残したい」「行政側と「企業活動を継続発展させるために人材確保したい」企業側との思いは一致しています。行政側では学校教育のなかで「地元の中小企業に入りたい！」「と思う人をどう育成するか？また企業側は地元の中小企業に入りたいと思う「企業作り」をどう行っていくか？先進事例となっている愛媛同友会の事例を愛媛県同友会代表理事の米田氏より報告いただき、大村市長を中心とする行政側と地元中小企業家と相互理解を深めていきます。

●諫早支部

日 時 7月18日(水) 18:30～21:30
会 場 諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ 昭和から平成を生きる 我が人生に悔いなし
～脱サラ！そして同友会との出会い～

報 告 者 森塗料店 代表者
森 千尋 会員

1999年に入会し、同友会と共に学び経験してきた日々から、相談役として諫早支部を見守る立場の現在。「昭和と平成の比較」「脱サラ起業後の苦楽」「同友会との関わりと経営理念」を語ります。

●島原支部

日 時 7月23日(月) 19:00～21:15
会 場 HOTEL シーサイド島原
テ ー マ 失敗を繰り返した男だから言える事
～波乱万丈現在進行形～

報 告 者 (有)思案橋観光 取締役社長
山口 憲男 氏(元同友会会員)

20歳で1800万円の借金を背負うも完済、25歳には呉服店にて起業し年商6億円を売り上げるも倒産、その後、一文無しから健康食品会社を設立し多角経営を始め長崎ではclub子悪魔など店舗を営業していました。同友会では県例会委員長(理事)まで務めるも全ての事業を閉鎖し現在、会社は休眠状態となる。そんな私から下記ポイントに焦点を絞って報告させていただきます。
・どうやって20歳で多額の借金が出来たのか？ ・ド素人が呉服屋を起業して年商6億売り上げた秘訣 ・一文無しから再出発、そして多角経営の結末 ・失敗を繰り返した理由を教えてください 同友会 ・そして報告の日、今の状況は？

●佐世保支部

日 時 7月17日(火) 18:30～21:00
会 場 アルカスSASEBO 3F 大会議室
テ ー マ 法律家として
報 告 者 佐世保フロンティア法律事務所 代表弁護士
渡会 祐二 会員

弁護士となって様々な経験をしてみましたが、中でも大切だと思っていますのは、皆様がアクセスしやすい事務所(敷居が低い事務所)であると感じております。なぜならば、困っている方がいても、弁護士にアクセスができなければ、その解決のお手伝いができないからです。そして、よりアクセスしやすくなるためには、私ごとのような人間であるのか、また、弁護士業とはどのような仕事であるかを知っていただくのが必要だと考えています。そこで、今回は、次のとおりの概要で報告をさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

1.プロフィール・私が弁護士になるまでの道程、2.佐世保市の弁護士事情等、3.弁護士の業務内容の紹介(借金問題も含む)、4.弁護士事務所経営者として目指す目標

●北松浦支部

日 時 7月19日(木) 18:30～20:30
会 場 サンパーク吉井
テ ー マ 創業35年これまでの中村商事とこれからの中村商事
報 告 者 (有)中村商事 代表取締役
中村 寿弥 会員

養魚用飼料販売下請けで個人事業から創業した先代、羽陽曲折ありながら現在に至る歴史と、代表交代後の現在勉強中の二代目新社長が夢を交えた、今後の展開を赤裸々に報告していただきます。

●五島支部

日 時 7月18日(水) 18:30～21:00
会 場 福江総合福祉保健センター
テ ー マ 未定
報 告 者 (有)五島食産 代表取締役
山本 一徳 会員

●青年経営者会

日 時 7月24日(火)
会 場 未定
内 容 未定

長崎全研

2019年は長崎にて中小企業問題全国研究集会が開催されます!!
2019年2月21・22日開催まで

あと **245** 日!!

※6月14日現在